



彩雲 at 横浜 (2012年9月)

太陽の近くにある雲が緑や赤、青に色付く現象。太陽の光が小さな雲の粒(水滴)に回折することで、色が分かります。



虹 at つくば (2016年8月)

太陽の光が雨粒等の水滴の表面で屈折し、水滴内部で反射、さらに水滴から出るときに屈折することで光が分かれてできる光の輪。



ベール雲/頭巾雲 (2016年9月)

積雲や積乱雲の雲頂を覆う薄く水平に広がる雲。周りの湿った空気が積雲や積乱雲の上昇気流に押し上げられることでできます。



色付いた巻雲 (2014年8月)

飛行機に乗ると、普段は空高くに見える雲(巻雲)がほとんど真横に見えます。



環天頂アーク at 富山県立山町 (2014年12月)

太陽のはるか上に見える虹色の弧。雲の中にある六角形の形をした小さな氷の板(六角板状氷晶)に、太陽の光が屈折することで色が分かれて、虹色に見えます。



幻日 at つくば (2016年10月)

太陽の水平両側に現れる虹色あるいは白色の光。六角形の形をした小さな氷の板(六角板状氷晶)に太陽の光が屈折することで虹色に見えます。



夕暮れの光芒 at つくば (2016年5月)

薄明光線とも呼ばれます。太陽の光が雲の隙間から漏れて光の柱が放射状に広がる現象です。夕焼け時には光が黄金色の輝きになります。



光芒 福島県郡山市 (2014年 8月)

太陽の光が雲の隙間から漏れて、光が放射状に広がる現象です。雲の影になっている部分が暗く、光が当たっている部分が明るく見えます。



雪の結晶 富山県立山町 (2017年 1月)

樹枝状の結晶です。上空が湿っているときにできやすい雪の結晶です。気温の低いと、降ってきた結晶が融けずに布の上に残ります。



飛行機と虹 at つくば (2016年8月)

虹の近くを飛行機が通過した時の写真です。ただ、飛行機に乗っている人からは、虹はその場所に見えません。



積乱雲と虹 at つくば (2016年8月)

空にかかる虹。虹のかかっているところは雨の降っている場所です。左側にある積乱雲の下では特に激しい雨が降っています。



積乱雲と虹 at つくば (2016年8月)

積乱雲から降る雨に虹がかかっています。虹は太陽の光が雨粒(水滴)の表面で屈折し、水滴内部で反射、さらに水滴から出るときに屈折することで光が分かれてできる光の輪です。